

項目	内容
名称	サジー、サージ、ウミクロウメモドキ、サクリュウカ [英]Sea Buckthorn、Argasse、Argousier、Chharma、Dhar-Bu [学名]Hippophae rhamnoides
概要	サジーは、ヨーロッパ、アジア原産のグミ科植物。有刺の落葉性低木または高木で、2～5 m程度に生長する。
法規・制度	■食薬区分 ・サージ (サクリュウカ/ラムイノデス) 果実、種油：「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質 (原材料)」に該当する。
成分の特性・品質	
主な成分・性質	・サジー果実は、リンゴ酸、酢酸、キナ酸、揮発油、シトステロール、フラボノイド類、ビタミン類 (A、B1、B2、B6、C、E)、脂肪酸 (リノレン酸、 α -リノレン酸、オレイン酸、パルミチン酸、パルミトレイン酸など) を含み、ビタミンCは400 mg/100 g含む (PMID:15539258)。ただし、これらの成分の含有量は植物の起源、生育気候や、製品製造の過程により大きく異なる (101)。
分析法	・サジー果実中のフラボノイド類を、蒸発光散乱検出器 (ELSD) を装着したCPC (遠心分配クロマトグラフィー) およびHPLCにて分析した報告がある (PMID:21315362)。 ・サジー果実および果汁中の葉酸をHPLC-MS/MSにて分析した報告がある (PMID:18278485)。

有効性

循環器・呼吸器	<p>RCT</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総コレステロール値がやや高めの成人男性14名 (35~53歳、フィンランド) を対象とした二重盲検クロスオーバー無作為化プラセボ対照試験において、サジーフラボノール抽出物0.4 g/日を4週間摂取させたところ、血中脂質 (コレステロール、TG)、血糖、CRPや抗酸化能に影響は認められなかった (PMID:16968106)。 ・健康な成人229名 (試験群115名、平均30.6±8.6歳、フィンランド) を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、サジー果実28 g/日を3ヶ月間摂取させたところ、血中脂質 (TC、HDL-C、LDL-C、TG) に影響は認められなかった (PMID:19288149)。
消化系・肝臓	調べた文献の中に十分な情報が見当たらない。
糖尿病・内分泌	調べた文献の中に十分な情報が見当たらない。
生殖・泌尿器	調べた文献の中に十分な情報が見当たらない。
脳・神経・感覚器	<p>RCT</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドライアイの患者96名 (試験群49名、平均45±18歳、フィンランド) を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、サジー油2 g/日を3ヶ月間摂取させたところ、涙膜の脂肪酸構成に影響は認められなかった (PMID:21832964)。 ・ドライアイの患者100名 (試験群52名、平均45±18歳、フィンランド) を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、サジー油2 g/日を3ヶ月間摂取させたところ、涙膜の浸透圧の増加抑制、赤みの減少が認められたが、その他の症状の評価に影響は認められなかった (PMID:20554904)。
免疫・がん・炎症	<p>RCT</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康な成人254名 (19~50歳、試験群127名、フィンランド) を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、サジー冷凍ピューレ28 g/日を90日間摂取させたところ、風邪、消化管感染症、尿路感染症の発症リスクや症状の持続期間に影響は認められなかった (PMID:17593932)。
骨・筋肉	調べた文献の中に十分な情報が見当たらない。
発育・成長	調べた文献の中に十分な情報が見当たらない。
肥満	調べた文献の中に十分な情報が見当たらない。
その他	<p>RCT</p> <ul style="list-style-type: none"> ・透析患者45名 (平均62±14歳、スウェーデン) を対象とした二重盲検クロスオーバー無作為化プラセボ対照試験において、サジー油500 mg×4/日を8週間摂取させたところ、唾液腺のDNA切断、DNA酸化障害、唾液分泌量、血中炎症マーカー (高感度CRP、抗トリプシン、オロソムコイド、白血球数) に影響は認められなかった (PMID:23131570)。

参考文献

- (7) 中薬大辞典 小学館
- (30) 「医薬品の範囲に関する基準」(別添2、別添3、一部改正について)
- (22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第1版 東京堂出版 林真一郎ら 監訳
- (91) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS)
[\(PMID:18278485\) Anal Bioanal Chem. 2008 May;391\(1\):211-9.](#)
[\(PMID:15539258\) J Nutr Biochem. 1999 Nov;10\(11\):622-30](#)
[\(PMID:20558226\) Food Chem Toxicol. 2010 Aug-Sep;48\(8-9\):2483-9.](#)
[\(PMID:21315362\) J Chromatogr A. 2011 Sep 9;1218\(36\):6173-8.](#)
[\(PMID:16968106\) J Agric Food Chem. 2006 Sep 20;54\(19\):7364-9.](#)
[\(PMID:21832964\) Cornea. 2011 Sep;30\(9\):1013-9.](#)
[\(PMID:22759730\) Forsch Komplementmed. 2012;19\(3\):153-6.](#)
- (101) Pakistan J Nutr. 2004;3(2):99-106.
[\(PMID:19288149\) Eur J Nutr. 2009 Aug;48\(5\):277-82.](#)
[\(PMID:20554904\) J Nutr. 2010 Aug;140\(8\):1462-8.](#)
[\(PMID:17593932\) Eur J Clin Nutr. 2008 Sep;62\(9\):1123-30.](#)
[\(PMID:23131570\) J Ren Nutr. 2013 May;23\(3\):172-9.](#)
- (2019374687) 日本消化器病学会北陸支部例会プログラム・抄録集.
2018;127:39.